



今月の大槌とびと

トムソン・ウィル・ローレンスさん ロツサム・ダンカン・ロバートさん

ALTとして3年間大槌学園と吉里吉里学園の英語の授業等に関わってくれたトムソン・ウィル・ローレンス(以下、ウィル)氏が帰国することになり、新しいALTとしてロツサム・ダンカン・ロバート(以下、ダンカン)氏が就任しました。
ウィル氏には、思い出や印象に残ったこと、ダンカン氏にはこれから始まる大槌での生活等についてそれぞれ聞いてみました。

大槌での生活はどうでしたか？

ウィル(以下、「ウィル」)とにかく癒されました。地元と同じで自然がすぐ近くにあつて、優しい人が多く色々なことを教えてもらえました。食べ物もとてもおいしいし、山登りなどアウトドアなことが好きなので趣味にも困ることはなかったです。あと、大槌にきて初めて祭りをみることできました。

たくさんあると思いますが特に印象に残ったことは？

ウィル1年目に大槌祭りを見た時は、観光で見ているような感覚でしたが、2年目に見た時、祭りに参加している子供たちが「ウィル先生!!」と元気よく声をかけてくれて、まわりの人たちも「先生なんだね」とい

う感じで声をかけてくれました。そのときのぬくもりの様な温かい気持ち、大槌の一員として迎えられているような感覚は今でも鮮明に覚えています。
また、学校の外での子供たちの頑張りを見る事ができたので、そのこともとても印象的でした。

大槌の人たちに一言

ウィル3年間、いろんな人たちに本当に優しくしてもらいました。町との姉妹都市交流が関わるきっかけになったので、アメリカに戻っても大槌とフォートブラックの友情が深まろうサポートしていきたいです。

◆ ◆ ◆
大槌に来るきっかけは何でしたか？
ダンカン(以下、「ダン」)大槌には、フ

ォートブラックとの姉妹都市交流の関係等で、いままでに2回来たことがあります。震災のあと、なにか大槌にできることはないかと思っていました。今回のALTの仕事のおかげでまた大槌にすることができました。

大槌に来る前、フォートブラック市ではどんな仕事をしていましたか？
ダンフォートブラック市には、自然がたくさんあり、国立公園がたくさんあります。その自然の中で野外学習センターにつとめていて、小学校4年生から高校生までの受け入れをしていました。受け入れた学年に合わせて、実際に自然と触れあえるような授業をしていました。多くの自然や生態系に恵まれているので、色々な環境を比較することができま

大槌に来て(あるいは日本で)やってみたいことはなんですか？
ダン大槌にきてやってみたいことはたくさんあります。まず、色々なものを食べてみたいです。そして山

登りが好きなので色々な山に登ってみたいし、アメリカでもやっていたサーフィンもしたいです。

あと、アーチェリーやドラムもやっていたので、弓道や和太鼓にも興味があるし、剣道にも挑戦したいです。

町の人たちに一言

ダン今回、ALTとして大槌に呼んでもらい、実際に来ることができました。本当にうれしいし、感謝しています。子供たちが楽しく英語を勉強できるよう頑張りたいし、姉妹都市の関係がより良いものになるよう関わって行きたいです。

